

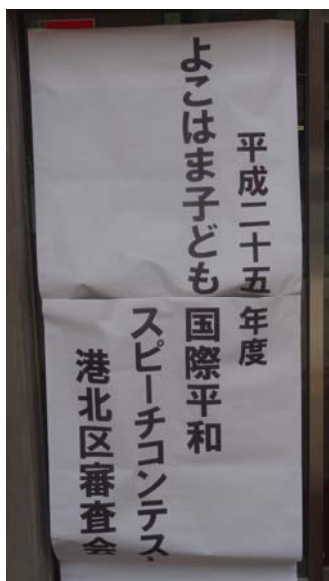
1307 平成25年度 よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 港北区審査会開催  
・・・区内小学校25校の学校代表児童が6月18日【火】港北公会堂で・・・

よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト『港北区審査会』の小学生の部が6月18日(火曜日)港北公会堂にて開催されました。横浜市教育委員会の発表によると、今年で18回目を迎えるスピーチコンテスト。各区審査会で選ばれた代表者が本選に出場します。

『よこはま子ども国際平和プログラム』のひとつとして行うこのスピーチコンテストでは、人権、福祉、環境、東日本大震災を通して見えてきた世界とのつながりなど、さまざまな視点から子どもたちの国際平和に対する熱い思いを発信します。

港北区の審査会では、区内公立小学校25校の代表者がそれぞれに発表をして見事に主張していました。

その結果、審査員の方々も悩んだようですが、師岡小学校の6年生張 芳怡さんが港北区小学校の代表として選ばれました。(次頁掲載)  
本選は、7月25日(木)午後から西公会堂で開催されます。



前半の児童の発表から



港北区内の小学校代表となった

横浜市立師岡小学校 六年 張 芳怡



### 『心の平和』

人と人がつながること、同じ立場に立ち、おたがいを認め合うこと、思いやりの心を持ち、悲しい心を洗い流すこと。私はそれが一番大事だと思います。

『争い』とは、大きな戦いのことだと思っていまませんか。

しかし、争いは私たちの身近なところでも起きています。

『人々を悲しませる。』それ自体が争いなのです。

私には、悲しい体験があります。私は、円形脱毛症です。六年前、

かみの毛がどんどんぬけていく恐怖が私をおそいました。

そして、私はさらに悲しい思いをしました。病気のことでもわかりか

らひやかされ、『私の居場所はないんだな。』そんな風に思っていました。

週末が大好きでした。

月曜日になると、ゆううつで仕方ありませんでした。私は思い切って

母に相談しました。その時、母は私に、

『つらかったね。』と声をかけてくれました。

先生にも思い切って相談しました。先生は、みんなに呼びかけてく

ださって、私はとてもうれしかったです。

『いじめってどうやって止めればいいんだろう。』と思う人がいる

のではないのでしょうか。

でも、あなたや他の人の一言で、その人の運命はかわります。

私は、五年生の時にこの学校に転入したので、六年のクラス替えが

不安でした。でも、同じクラスになった女の子がすぐに声をかけてく

れて、不安が吹き飛びました。みんなや母、先生が声をかけてくれた

おかげで、今は、早く学校に行きたいと思えるようになりました。

私はこれから、前の自分と同じように学校に行くのが不安な子に声をかけたり、自分の意見や体験を伝えたりして自信をもってもらえればいいなと思っています。

人と人がつながること、同じ立場に立ちおたがいを認め合うこと、思いやりの心を持ち、悲しい心を洗い流すこと。それが私にとっての『平和』であり、これからめざしていきたい『平和』でもあります。



港北公会堂会場には、参加した各代表児童と引率の先生方や保護者の方々が、堂々とした発表に拍手を送っていました。

全員が発表したあと、各児童へ表彰があり港北小学校長藤村先生から講評がありました。今後さらに学びを深める取り組みについて具体的にお話がありました。